

### ○ 日本獣医師会の市民シンポで講演、獣医師の社会的地位向上を一農場管理獣医師協

生産農家と食肉流通事業者らと連携して獣医師の立場から畜産物の第三者認証を行っている「農場管理獣医師協会」(会長=北村直人元農林副大臣)はこのほど、北海道・札幌市内で開かれた日本獣医師会主催の市民公開シンポジウムで基調講演を行った。「食の安全を守る獣医師」というテーマで開かれ、北村会長は同協会の活動や放射能汚染に対する対応などに触れ、これまでのような獣医師と畜産農家の関係のみではなく、流通や消費まで関与することで食全体の管理者として獣医師の社会的地位を向上させたいと強調した。

シンポジウムは日本獣医師会の獣医学術学会年次大会(3~5日)のプログラムの一環で開かれたもので、パネラーとして同協会の北村会長や大橋邦啓理事、ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役、日本養豚開業獣医師協会の大井宗孝代表理事が登壇したほか、地元市民や獣医関係者ら95人が参加した。

北村会長は、現場で働く獣医師の食への関わりや、放射能汚染に対する安全への取り組みについて触れ、食肉の検査だけでなく飼料や環境面でも管理された安心・安全な畜産物を消費者に届けたいと強調。大橋理事は、肉牛の生産に関わる管理獣医師の役割として、農業のポジティブリスト制度や飼養管理基準と同教会の認証事業を紹介した。植村常務は、消費者の購買行動や農場管理獣医師協会認証



に対する消費者の期待について触れ、「生産者、流通と消費者がお互い信頼できる環境を作り、

来場している市民が良いものを選んで生産者に感謝を込めた適正価格で購入するという行為で日本の生産現場を応援してもらいたい」と強調した。

会場からは▽適正価格で購入してもらうにはどうすればよいのか▽ブランド化の手段はあるのか▽海外でのアニマルウェルフェアの価格への見返りが実際にあるのか—といった質問が挙げられ、植村常務は「消費者が何を欲しがっているのか、消費者が良いものを見分け適正価格で購入することが良い生産者を応援すること。生産者と消費者が信頼関係で結ばれ、お互いのことを理解し合うことで再生産可能な良い関係ができる」と答えた。また北村会長は「生産農家との関係も重要だが、流通事業者や消費者にも関与して食全体の管理者としての立ち位置を確保することで、獣医師の社会的地位の向上ができる。そして何よりもそれを社会が望んでいる」と訴えた。

### ○ 「小樽の響 ロース生ハム」、「ラ・ピッツァ ウィンナー&ベーコン」—伊藤ハム

伊藤ハムの春の新製品は次の通り。

▽「小樽の響 ロース生ハム」=“北海道で生まれたこだわりの生ハム”として新発売。“北海道産豚肉”を原料に、“ラウシッパ”で肉本来の旨みを引き出し、伊藤ハムデイリー(本社:宮城県)小樽工場ですばりに作り上げた「北海道で生まれた生ハム」。少し厚めにスライスしているので、噛むたびに口いっぱい広がる豚肉の旨みと甘みをじっくりと楽しめる。

希望小売価格は50gで430円(税込み)。2月15日発売、初年度売上目標は2億円。

▽ラ・ピッツァ ウィンナー&ベーコン=好評のピッツァブランド「ラ・ピッツァ」シリーズから、特製うす焼き生地タイプの『ラ・ピッツァ ウィンナー&ベーコン』を新発売する。

サクッ!パリッ!とした食感が特長の特製うす焼き生地に、お子様の大好きなマヨネーズ風ソースと3種類のナチュラルチーズ、そしてピッツァの人気具材であるウィンナーとベーコンをダブルでトッピングし、家族揃ってのランチや子供のおやつに最適な商品に仕上げた。



希望小売価格は、1枚入で430円(税込み)。発売は2月15日、初年度売上目標は110億円(ラ・ピッツァシリーズ計)。